

～地域医療研修を終えて～

豊橋市民病院 研修医 2 年目

新城市民病院での 4 週間にわたる地域医療研修では、主に総合診療科として外来診療や救急初期対応をさせて頂きました。特に初診外来をさせて頂く中で、普段の救急外来での診療との大きな違いを感じました。これまでの 1 年半、豊橋市民病院の救急外来で様々な主訴の患者さんを診てきましたが、緊急病態の除外もしくは診断のために問診や身体診察以上にバイタルサイン、ABC 評価、各種検査所見に重きを置いた診療を行ってきました。しかし初診外来では、一つの主訴に対して丁寧に問診や身体診察をとるとともに鑑別を絞るために更なる問診を重ねていくという、総合診療の真髄ともいえる診療のあり方を肌で感じることができました。当初は慣れずに苦労することもありましたが、予診をとり終わる度に担当の先生からフィードバックを受け、更に夕方のカンファレンスでも他の先生方からもフィードバックを受けることができ、おかげで日々成長することができました。さらにそのように問診、身体診察を深めることで各疾患への検査前確率がより鮮明となり不必要な検査を除外していくというステップも体感することができました。問診、身体診察からより適確な検査前確率を算出するという診療姿勢を、来年からの総合内科外来での診療にぜひとも生かしていきたいと思えます。

また、週に一回の内科カンファレンスでは医師に加えて看護師、理学療法士、MSW といった他職種の方々とディスカッションを通して、患者さんの生活背景も踏まえた上で退院後の生活を考えていくという退院支援の実態を目の当たりにすることができました。さらに MSW の方に実際に退院後の施設や利用可能なサービスに関するお話をしたり、訪問リハビリや老人保健施設といった施設の訪問をする機会も与えて頂きました。普段の研修ではあまり触れることのできない医療・福祉サービスに触れることができ、このような社会的側面にも精通した医師になる必要があると痛感させられました。

さらに、毎朝行われる勉強会、Up to date 勉強会、EBM 勉強会を通して常に最新の知識を取り入れていらっしゃる先生方の姿を見て、移り変わりの激しい医療界において常に最新の情報を習得し、より良い医療を患者さんに提供することが医師に求められていることだと再認識させられました。

4 週間の地域医療研修では、初めて訪れる土地、初めての病院ということで当初は不安ばかりでしたが、優しく熱心な先生方、温かいスタッフ方のおかげで、本当に充実したものとなりました。短い間ではありましたが、本当にありがとうございました。